

編集後記

日本語を話せる人が地球上で自分一人だけになったら……。想像するだけで身の毛もよだつが、かつてイシ（『イシ——北米最後の野生インディアン』岩波書店）が経験したような言語の消滅は、他地域でも起きていたし、黙してれば今後も起こりうる。本号の特集「先住民の言語」はこうした危機感と言語に関心を寄せる大切さを喚起する。「一言でもよいからマガール語を覚えて死のう。そしてマガール人として死んでいこう」。これはネパールの先住民マガールの民族運動家、故カバンギさんが、マガール語を失いネパール語化した同胞に向けて演説で発したことばだ。先住民にとって言語はアイデンティティの根幹にかかわるのだ。

巻頭エッセイのタイトルを見て、2CVの車体が目に浮かんだ読者はかなりの車好きだろう。大量生産の工業製品にも確かに独特の美や個性を放つものがある。メタ機能の白く言い難い美にこそ文化＝遊びが宿る、という少し大仰だろうか。その美には「しばしば万人受けしない」という修飾語も付けたくるところだが……。シトロエン2CVを目にしたら、きっと納得いただけると思う。（南真木人）

●表紙：カラーシャ語で話しかけてくるカラーシャ人の子どもたち（バキスタン、ルンプール谷、2016年、吉岡乾撮影）

次号の予告

特集

「世界の縁起モノ」（仮）

みんぱくをもっと楽しみたい方のために
国立民族学博物館友の会のご案内

友の会は、みんぱくの活動を支援し、博物館を楽しく積極的に活用するためにつくられました。

毎月『月刊みんぱく』をお届けするほか、さまざまなサービスをご用意しております。

維持会員・正会員

『月刊みんぱく』の送付／友の会機関誌『季刊民族学』の送付／本館展示の無料観覧／特別展観覧料の割引／友の会講演会への参加／研究者同行の国内外研修旅行への参加 など

ミュージアム会員

『月刊みんぱく』の送付／本館展示の無料観覧／特別展観覧料の割引／友の会講演会への参加 など

繰り返し入館できる**みんぱくフリーパス**や、学校・学部単位で利用できる**キャンパスメンバーズ**など各種会員種別もご紹介します。目的にあわせてご利用ください。

詳細は、一般財団法人千里文化財団までお問い合わせください。
(電話 06-6877-8893 / 平日9:00～17:00)



月刊みんぱく 2019年12月号

第43巻第12号通巻第507号 2019年12月1日発行

編集・発行 人間文化研究機構 国立民族学博物館

〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園 10-1
電話 06-6876-2151

発行人 園田直子

編集委員 南真木人（編集長） 上羽陽子 齋藤晃

菅瀬晶子 三島禎子 吉岡乾

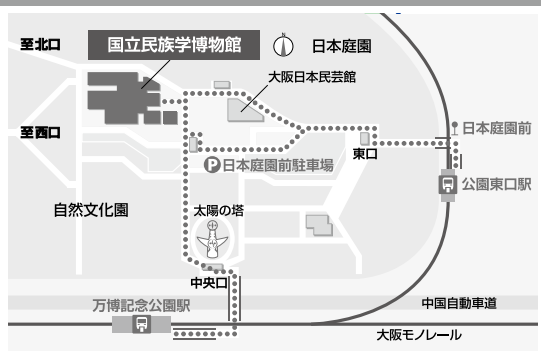
デザイン 宮谷一孝 長岡綾子

制作・協力 一般財団法人 千里文化財団

印刷 能登印刷株式会社

*本誌についてのお問い合わせは国立民族学博物館広報係にお願いします。

*本誌掲載記事の無断転載を禁じます。



交通案内

- 大阪モノレール「万博記念公園駅」・「公園東口駅」下車、徒歩約15分。
- 阪急茨木市駅・JR茨木駅から近鉄バスで「日本庭園前」下車、徒歩約13分。
- 乗用車は、公園内の「日本庭園前駐車場」（有料）から徒歩約5分。「日本庭園前ゲート」横にある当館専用通行口をお通りにください。
- タクシーは、万博記念公園「日本庭園前駐車場」まで乗り入れてきます。

みんぱくホームページ

<http://www.minpaku.ac.jp/>

みんぱくフェイスブック

<https://www.facebook.com/MINPAKUofficial>

みんぱくツイッター

<https://twitter.com/MINPAKUofficial>

みんぱくインスタグラム

<https://www.instagram.com/MINPAKUofficial/>

みんぱくYouTube

<https://www.youtube.com/user/MINPAKUofficial>